

# 小学生に教え、自分にも重ねる

私立学校である「自由の森学園」（飯能市）には、かなり広範囲から生徒が通学しています。東京や埼玉だけではなく、神奈川や千葉から通学している生徒もいます。寮もありますから、生徒の出身地は全国に広がっています。

そういうこともあり、公立小学校や中学校と違って地域との関係はあまり密ではありませんでした。ここ数年は「地元の子どもは地元で育てる」を合言葉に、飯能市の高校教員が市立の中学校で授業を行う出前授業が定着し、公立私立を問わず中高の連携が活発になっていきます。

夏休みに入った7月の3日間、「自由の森」の高校生9人が、近くの飯能市立第二小学校の算数の補習教室に、学習補助として参加しました。第二小は、1学年1クラスの小さな学校です。校長先生

## 高校生版教育実習

## はぐくむ

から高校生に協力してもらえないかとお話があり、校内での呼びかけに9人が集まりました。

9人は6学年各クラスに分かれて、担任の先生と一緒にプリント学習の丸つけをしました。お兄さんお姉さんが来ていることもあってでしょう。小学生は真剣にプリントに向かいます。1年生を担当したFさんは、子どもたち一人ひとりの横に座ってサポートしました。同じ目の高さで話をするのは大切なことです。

参加した高校生は終了後、互いに感想を述べ合いました。みんな刺激を受け、様々なことを学んだ様子でした。

1年生を担当したD君は、「『9-10』をどう説明したらいいか迷った。ゼ口の認識が弱いかもしれない」と語りました。2年生を担当したN君は、「頑

張る気持ちだろうけれど、急いで解こうとしてミスすることがよくあった。早くやることより間違えなく解くことの大事さを分かってほしい」。6年生を担当したT君は自分も受験勉強している身なので、「（計算の過程を）消しゴムで消さないとか確かめ算をするとかは自分事だと気づいた」と言います。

聞いていると、彼らがまるで高校生版の小さな教育実習を経験したように感じました。教えることで自らがより深く認識していくということは、学校の中ではしばしばあることです。

その意味で、この経験は実は高校生にとって実り多いものだったのではないかと思います。9人の中には、将来教師になることを考えている生徒もいました。

新たに始まった小学校と高校の連携は、これからも広がりそうです。

自由の森学園理事長

鬼沢真之